

防木ジャーナル

THE BOSUI JOURNAL

ROOFING/SIDING/INSULATION/RENEWAL

1

2013

No.494

特集

◆ ◆
2013年に期待される防水材料と需要予測
防水改修設計・改修工事の考え方



タイル剥離の盲点

鈴木 哲夫

「化けの皮を剥がす」と人は言うが、なかなか剥がれないものだ。一方、張付けたタイルは、健全な施工であってもしずれは剥がれる運命にある。

そこで、外壁に張付けたタイルにどのような問題があるのか考えてみた。

一般的によく見かける剥離状態を挙げると、

- ①躯体表面で剥がれたもの
- ②不陸調整した薄塗りモルタルで剥がれたもの
- ③タイル割付けでかさ上げが必要になり、下塗りした発泡材入りサンドモルタルが凝集破壊したもの
- ④下地モルタルとタイル張付けモルタル界面で剥がれたもの
- ⑤タイル裏足部分で剥がれたもの

—などがある。

これらの現象は、ほとんどが施工不良に起因し、複数の施工不良が競合すれば剥離・剥落の初期不具合発生率が高まる。特にタイル張付け下地となるコンクリートの表面状態や下地調整した薄塗りモルタルまたは付け送り(かさ上げ)サンドモルタルの不良、縦横伸縮目地が適正に施工されていない場合に剥離不具合として現れやすい。言ってみれば新築時の「化けの皮」が剥がれの要因になっている。

タイルの剥離の定義は、図-1に示したように浮き予備軍を私は含めている。浮き予備軍は打音判定が難しく、引抜き試験でないと判定は難しい(写真-1)。徐々に経時的な変化で浮きがひどくなると、目視しても分かるはらみ(ふくれ)に至る。はらみは、タイル目地で何とか落ちずにいる状態で剥落してもおかしくない状態であるから、落ちていなくとも「はらみ=剥落予備軍」とも言える(写真-2)。

剥離不具合改修を行う場合には、すべての不具合を一掃すべきではあるが、予算の都合や改善が広範囲に及ぶ場合には一定範囲になりやすい側面もある。しかし、見て見ぬふりをすれば改修の瑕疵を問われかねないので、せめて以下の点に留意したい。

- ①工着手前に詳細調査し、躯体面および下地の状態、伸縮目地の状態、張付け方の確認、付着強さの確認を必ず実施
- ②発注者に上記の調査結果を必ず説明し、補修範囲や補修方法と予算措置の合意
- ③発注者と改修設計者および請負者間でタイル補修に関する合意事項を書面化

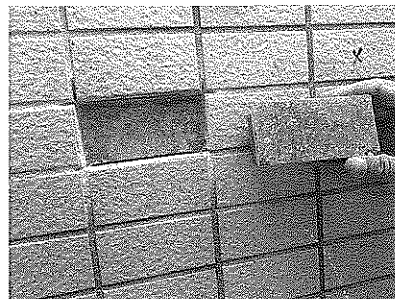


写真-1 浮き近くの浮き予備軍

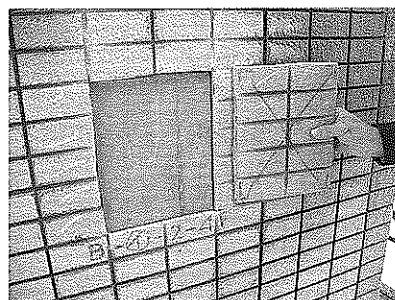


写真-2 はらみ状態の剥落予備軍

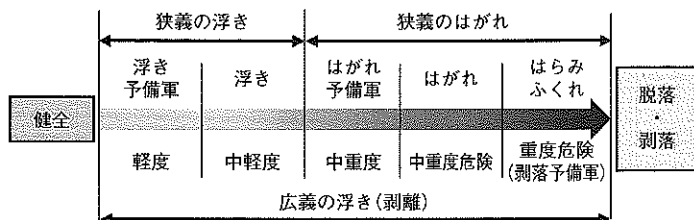


図-1 タイル張りの剥離等の定義

(有)鈴木哲夫設計事務所 代表取締役